

Project Design Matrix for Evaluation (PDMe)

Project Title: The Project for the Improvement of Technology on Diagnosis of Animal Infectious Diseases in Mongolia

Duration: July 1, 1997 ~ June 30, 2002

Target Group: Researchers of the Institute of Veterinary Medicine and the faculty members of Veterinary Medicine

Revised on April 4, 2002

Narrative Summary	Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p>{Overall Goal}</p> <p>The livestock industry is developed through the improvement of the technology on diagnosis of animal infectious diseases.</p>	<p>Production of good quality livestock products is increased.</p>	<p>Statistics from the Ministry of Food and Agriculture</p>	<p>There is no change of policy of the Government of Mongolia on livestock industry.</p>
<p>{Project Purpose}</p> <p>The immunological and immunopathological research for the diagnosis of infectious diseases is reinforced through basic and applied research activities.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Established diagnostic techniques at Immunological Research Center 2. Level, quality and appropriateness of ongoing research topics 3. Number and quality of research publications 4. Results of field application test on immunological diagnostic techniques 	<p>Annual report of IVM Report of the technical guidance Report of the Project Report of JICA study team</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Appropriate policies to promote livestock industry under market economy are formulated and implemented. 2. There are established central and rural organizations for the extension of acquired diagnosis techniques on animal infectious diseases. 3. Veterinary service system from central to rural level is working.
<p>{Outputs}</p> <p>The researchers of the Institute of Veterinary Medicine (IVM) and the faculty members of Veterinary Medicine acquire basic and applied research techniques for immunological diagnosis of animal infectious diseases.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Number of qualified research staff developed through the Project 2. Number of laboratory manuals, monographs, posters and texts. 3. Established research techniques on diagnosis of animal infectious diseases. 4. Domestic techniques applied for the field tests. 	<p>Annual report of IVM Report of the technical guidance Report of the Project Report of JICA study team</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Close coordination and cooperation for joint research activities with other educational institutes and animal health laboratories are maintained. 2. Research promotion policy is maintained by the government.

<p>[Project Activities]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General research for immunological diagnosis are enhanced. 2. Basic research activities for immunological diagnosis are enhanced on the following infectious diseases. <ol style="list-style-type: none"> 1) Viral diseases 2) Bacterial diseases 3) Protozoan diseases 3. Basic research activities of clinicopathology are enhanced on infectious diseases. 4. Immunological/biochemical research activities with laboratory animals are enhanced on infectious diseases. 5. Host-patophysiological and pathomorphological research activities are enhanced on infectious diseases. 6. Overall technique is applied for the advanced research of diagnosis on serious infectious diseases. 	<p>[Input]</p> <p>I. Japanese side</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Japanese experts <ol style="list-style-type: none"> 1) Long-term experts 2) Short-term experts 2. Provision of machinery and equipment <ol style="list-style-type: none"> 1) Experiment and research equipment 2) Vehicle 3) Office Facilities 3. Training of Mongolian personnel in Japan <p>II. Mongolian side</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arrangement of counterpart personnel <ol style="list-style-type: none"> 1) Project Director 2) Project Manager 3) Project Coordinator 4) Researchers in the necessary field 5) Other necessary supporting staff 2. Provision of land and facilities for the Project 3. Expenditure of local cost of the Project 4. Establishment of Joint Coordinating Committee 	<p>Counterpart personnel remain in the Project during the time of Cooperation</p> <hr/> <p>(Preconditions)</p> <p>There are no protesters against the Project in the Mongolian State University of Agriculture.</p>
--	--	---

3. アンケート結果

質問票への回答

1. カウンターパートの質問書に対する回答結果 《25票》

番号	質問	Yes		No		無回答		
		数	%	数	%	数	%	
1. プロジェクトの妥当性に関して								
1-1	プロジェクトは政府の政策、牧畜セクターや牧畜農家等のニーズに沿っていますか？	23	92.0	1	4.0	1	4.0	
	1) 診断技術の改善による迅速な診断と適切な予防策	7						
	2) 農牧分野の発展	5						
	3) 診断技術と知識の普及	3						
1-2	プロジェクトの成果はモンゴルの牧畜業の発展にどのように寄与すると考えますか？	17	68.0	0	0	8	32.0	
	1) 家畜の疾病予防生産性向上	8						
	2) モンゴルにおける診断技術の向上	9						
	3) 家畜診断技術教育の向上	8						
2. プロジェクトの効率性に関して								
2-1	日本人専門家の専門分野、人数、派遣時期と期間はプロジェクトの成果の達成のために適切でしたか？	25	100.0	0	0	0	0	
2-2	日本から供与された機材、数、種類、供与時期はプロジェクトの成果の達成のために適切でしたか？	24	96.0	0	0	1	4.0	
2-3	日本から供与された機材はモンゴル側により適切に維持管理されて使用されていますか？	全て	3	12.0	0	0	3	12.0
		殆ど	19	76.0	0	0		
		一部	0	0	0	0		
		まれに	0	0	0	0		
2-4	モンゴル側は、プロジェクトのための運営費、施設、機材等に関して適切な投入をしたでしょうか？又、それらはプロジェクトの成果達成のために適切に使用されたでしょうか？	20	80.0	0	0	5	20.0	
2-5	モンゴル側カウンターパートの数、配置、専門分野はプロジェクトの成果達成のために適切でしたか？	24	96.0	0	0	1	4.0	
2-6	カウンターパートの日本での研修に関して、人数、研修期間、研修科目などがプロジェクトの成果達成のために適切でしたか？	23	92.0	0	0	2	8.0	
	カウンターパートは日本で研修した技術をどのように活かしていますか？	IRCでの研究活動	5	20.0	0	0	5	20.0
		IRCでの技術移転	10	40.0	0	0		
		何もなかった	5	20.0	0	0		
3. プロジェクトの有効性に関して								
3-1	モンゴル側は、家畜感染症の診断に関する適切な組織、制度、政策を打ちたてたでしょうか？	23	92.0	1	4.0	1	4.0	

3-2	プロジェクト目標である、感染症の診断に関する免疫及び免疫病理学的研究は、基礎及び応用研究活動により強化されましたか？	23	92.0	1	4.0	1	4.0	
3-3	貴方は、プロジェクトにおいて得られた知識と技術に関して自信を持っていますか？	24	96.0	0	0	1	4.0	
4. プロジェクトのインパクト								
4-1	中央ラボ、県の獣医ステーション等がプロジェクトで開発された技術を使用する上で何が必要ですか？ IRCは何が出来ると思いますか？	情報提供	3	12.0	0	0	7	28.0
		技術支援・協力	16	64.0	0	0		
		機材供与	3	12.0	0	0		
		人材派遣	2	8.0	0	0		
		財政支援	1	4.0	0	0		
4-2	関連機関である農牧省と教育省にとってはどのようなインパクトがこれまでに、又は将来的にあるのでしょうか？	技術的連携	3	12.0	0	0	13	52.0
		他機関との連携	3	12.0	0	0		
		学術研究的連携	6	24.0	0	0		
5. プロジェクトの自立発展性に関して								
5-1	IRC はこれから家畜感染症の研究センターとして継続されるでしょうか？	24	96.0	0	0	1	4.0	
5-2	これまでの IRC の研究者は IRC に残って研究活動を継続するでしょうか？	23	92.0	0	0	2	8.0	
5-3	日本の協力終了後にも、モンゴル側からの、このプロジェクトに対する予算、要員、機材の投入は継続されるでしょうか？	21	84.0	2	8.0	2	8.0	
6. その他								
6-3	プロジェクトにおいて診断法のマニュアルが作成されましたか？ それらは何のマニュアルですか？ (AGID test, detection of EHV-1, ELISA, FAT, mAb, 免疫学用語集, 病理アトラス)	18	72.0	3	12.0	2	8.0	
6-4	プロジェクトを促進した要因は何でしょうか？	国内における緊急性	5	20.0	0	0	10	40.0
		政府の政策・支援	3	12.0	0	0		
		能力とチームワーク	5	20.0	0	0		
		機材の供与	2	8.0	0	0		
		プロジェクト運営	2	8.0	0	0		
6-5	プロジェクトを阻害した要因は何でしょうか？	組織の構造	13	52.0	0	0	8	32.0
		国内の弱い経済状況	1	4.0	0	0		
		プロジェクト財政不足	1	4.0	0	0		
		特に無し	4	16.0	0	0		
6-6	その他のコメントがあれば述べてください	非常に役に立った。	1	4.0	0	0	7	28.0
		今後の継続希望	15	60.0	0	0		
		研究課題の拡大希望	1	4.0	0	0		
		IVM から IRC を分離	1	4.0	0	0		
		大学に帰属すべし	1	4.0	0	0		

6) その他

プロジェクトにおいては、長期専門家の不在、機材供与の遅れなどがありながら、研究活動のためのマニュアルも作成され、プロジェクトが当初の目標を達成する促進要因となった主な理由に、国内における感染症診断技術改善への緊急性があったことと、プロジェクトチームの能力と研究活動におけるチームワークを挙げている。また、障害要因となった理由には、IRC の組織的構造、IRC への信頼が出来るまでに時間がかかったこと等に起因する IVM との事務的摩擦を約半数の CP が指摘した。その他のコメントに関しては、やはり、プロジェクトの継続を希望する意見が 60% の CP から出されており、このプロジェクトへの期待が大きい事を示している。

2. 農牧省と国家獣医局に対する質問書への回答 《各 1票ずつ》

1. 農牧省はプロジェクトの成果を今後どの様に利用しますか？ もし、それが困難であると考えられるならば、その理由は何ですか？	
農牧省	プロジェクトにより設置された、家畜感染症に関する精度の高い診断が可能な近代的機材を設置したラボを、100%活用し、将来、家畜感染症診断・予防のための新しい方法や薬を開発し、生産現場に普及させる事が可能と考えている。
国家獣医局	これまでIVMの研究室のみで行われていたプロジェクトのような研究活動が、今後はAimag, UBの獣医ラボ、移動ラボ等のレベルにより生産現場において成果を出すことが求められている。農牧省およびIVMはプロジェクトの成果をそのために有効活用する。
2. 食料農牧省は、牧畜業に関する全体的な開発計画またはマスタープランを持っていますか？ もしあれば、その計画の作成を担当しているセクションは何処でしょうか？	
食料農牧省	1996年に、国家大会議で承認された「地方政策基本方針」で、その内容は； -伝統的放牧と並行して集約的牧畜、飼料生産の適切な振興、-牧畜業者の収益向上 -モンゴルの家畜の血統保護 -家畜の育成、放牧地保全、改良、灌漑 -伝統的な放牧、疾病治療、薬品製造技術の改善 -その他、農業分野への機材と人材供給、 1997年には「家畜の品質；繁殖、サービスの改善」が承認された。(2005年まで)
国家獣医局	多くのプロジェクトと計画がある。「家畜の健康国家計画、2000-2010」では家畜ブルセラ症、鼻疽、結核、伝貧、牛白血病に対するプロジェクトが策定された。対ブルセラ症プロジェクトは政府の支援を受け、他の疾病に対するプロジェクトは年内に決定される予定。
3. 食料農牧省は家畜疾病診断サービスの改善に関する開発計画、又はマスタープランを持っていますか？	
食料農牧省	家畜重要感染症診断能力強化プロジェクト（2001-2002）が承認されている。その目的は、重要感染症発生地又はラボで、短時間に診断をするための技術と人材の質を高め、迅速に十分な対策をとる基本条件を確立することにある。(別添資料参照) 1992年「家畜の健康国家計画」(第64政令)が承認された。主な目的は、家畜群および商用飼育動物の健康保全システムの改善、サービスの質の向上により、感染症対策を強化し、罹患率と感染率を安全なレベルにまで下げ、輸出の可能性を高めることにある。
国家獣医局	現在「重要感染症ラボ今日かプロジェクト」を策定、政府の承認を受け実施中である。本件プロジェクトによる、重要感染症ラボ施設改修、EU諸国からの10万ドルの機材供与、設置始まっている。また、Veterinary Networkプロジェクトを策定し、その財源を探している。
4. もし、食料農牧省が上記計画を持っていた場合、その開発計画のコピーを下さい。	
食料農牧省	別添関連資料参照
国家獣医局	伝貧、牛白血病、結核、牛・山羊・羊のブルセラ症、獣医ラボネットワーク作りのプロジェクトを作成した。(コピー提供)
5. 牧畜分野の開発計画策定に関して食料農牧省を支援しているドナーはありますか？	
食料農牧省	今の所はない

国家獣医局	牛、羊、山羊のブルセラ症対策プロジェクト実施に IAEA(国際原子力委員会)が援助を表明したが、現在までの所は何も実施されていない。その他のプロジェクトに付いてはドナーを募っている。
6. 牧畜セクター振興のための、政府の政策との関連で、プロジェクトの成果は妥当であると思いますか？	
食料農牧省	実施中のプロジェクトは、政府の政策と目標である、①家畜重要感染症診断、②予防能力改善、③家畜群健全化、④畜産製品の品質向上、⑤安全性の改善および輸出増加の 5 つの目標に合致していることから、プロジェクトの成果は妥当であると考えている。
国家獣医局	上記5のプロジェクトは政府の活動計画であることから政府は支援している。一方、「家畜感染症診断技術改善計画プロジェクト」の実施により、短期間での診断と予防薬の開発を生産現場に普及させる可能性がでてきたので、家畜群の健全化のために掲げられている目標に合致している。人材育成もなされてと見ており、プロジェクトは妥当なものであると考えている。
7. 食料農牧省は家畜感染対策に関して国立農業大学とどのような連携/協力を行っていますか？	
食料農牧省	農業大学の専門家と人材の知識と能力向上のため、できるだけ国内外の研修、情報交換会、セミナーなどに参加させる政策を取っている。 家畜疾病対策改善については、答申された意見や提言、プロジェクトに対する支持、実施に田くいする支援等を行っている。
国家獣医局	国家獣医局は School of Veterinary Biology と連携し、専門家の教員が Aimag と地方の獣医のための専門的研修を実施している。この学校の微生物感染症研究室のグループが鼻疽対策プロジェクトに参加している。
8. プロジェクトに関してのサジェッションがあればご意見を述べてください。	
食料農牧省	プロジェクトの成果を柱に、家畜感染症のみならず人畜共通感染症に関する研究、診断法の改善、生産現場への普及、非感染症予防薬の開発等に向けてプロジェクトを継続することにより、家畜群の保全と同時に安全な食料供給が出来るようになるものと思われる。 また、プロジェクトにおいて、地方ラボに対する研修が行われたが、これにより地方の知識と能力が向上し、地方獣医サービスの質の向上、プロジェクトの成果の普及などにインパクトがあったと考えている。
国家獣医局	プロジェクトの今後3年間の継続を考えている。その目的は； <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの性佳品である診断薬を生産現場に普及させる。 - 伝貧、鼻疽、TB、狂犬病等の研究を行い、診断薬を製作する。 - 馬の原虫分野の協力 - 地方の獣医ラボの診断能力強化 である。